

平成二六年十二月号

# 笑ひ茸

佐怒賀正美

飛入りのやうに斜めに笑ひ茸

子等の声青海波めく秋神輿

添ふる手も大切冬のホルン吹く

衆院解散なぜ万歳や底冷えす

伊予人ひとの蜜柑密度の破顔かな

平成二六年十一月号

# 光沢

佐怒賀正美

駱駝の国へ返すメールや星月夜  
台風や灯を強くして天樹立つ  
月蝕や鉄骨に吊るいのち綱  
金色をひと刷け秋の木靴かな  
カレンダー裏の光沢虫すだく

平成二六年十月号

## 津軽

佐怒賀正美

津軽へと機翼は秋を梳きながら  
海峡に始まりのあり秋がすみ  
舟小屋に鶏がゐる秋日和  
するすると片町のびて湾澄みぬ  
星くづのほどの林檎の中に泊つ

平成二六年九月号

# 生身魂

佐怒賀正美

蟻の巣の迷路やここも自転中

句碑に向く十七回忌なる日傘

始祖鳥の名残の頸か青鷺進む

大花火首都は眼底さらしたる

誤報出撃せし父にして生身魂

平成二六年七・八月号

ゆりかもめ

佐怒賀正美

鉄骨の中に木組みや梅雨湿り

梅雨に浮く曲線あまた湾岸線

白南風や「宗谷」に残る傾斜計

三千世界へこの新緑から還るなり

鬼子母なり冥府に映る花柘榴

平成二六年六月号

# ざんざん降り

佐怒賀正美

青やかや職を退く日のざんざん降り

追悼・文挾夫佐恵さん 二句

軽き身の瑞みづの百寿や青浄土

新緑に百寿の魂を放ちしまま

追悼・西村友男さん

三千世界へこの新緑から還るなり

追悼・中村石秋さん

櫓臍の音曳いて去りゆく緑夜かな

平成二六年五月号

# 百千鳥

佐怒賀正美

稀に一ひら花は眉間に消失す  
うまさうに花食ふ鳥の大所帯  
寄りくるは猫の眷族甘茶仏  
宇宙膨張しつつ魂めく百千鳥  
路みちに猫を呼び出し入学児

平成二六年四月号

## 卒業子

佐怒賀正美

卒制に撮り祖母の全季節の光  
ぱたぱたと結婚念入りに卒業  
春寒しもたれ合ひつつ立つ辞書も  
落第生ふたり救ひて妻帰る  
漆黒のいでたち花の池よぎり



平成二六年三月号

## 浮上

佐怒賀正美

待春や辞書になりゆく紙ロール

秘密基地つぎつぎ浮上ふきのたう

勝者敗者みな帰り来よ春の月

春の使徒なり氷上に跳びつづけ

逃水の揺れて唇ならむとす

平成二六年一・二月号

## 神獣

佐怒賀正美

恵方気まぐれ神獣にならぬ猫

氷上の舞や銀河の音すこし

ゆざめから始る次女の恋ばなし

マンデラ逝く冬の虹からとどく歌

ゾンビよりはるかに寒き法成りぬ